

「特定の課題に関する調査」（国語，算数・数学）の概要

1. 調査の趣旨：

中央教育審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」（平成15年10月）の提案を踏まえ，児童生徒の学力の総合的な状況を把握するために，従来から実施してきた「教育課程実施状況調査」の枠組では把握が難しい内容について調査研究を行い，今後の教育課程や学校における指導の改善に資する。

2. 調査内容とその特色：

（1）国語

ペ ー パ ー テ ス ト	漢字	● 読み・書き（各50問，計100問），複数学年に10問ずつ共通の漢字を出題
	長文記述	● 意見文の記述 小学校 400～600字，中学校 600～800字 （テーマ：小学校「小学生のテレビの見方」，中学校「言葉の使い方」） ● 「記述の量」「発想や主題・認識」「構成」「記述」などの観点（6～7項目）から多角的に分析
質問紙調査		● 児童生徒の学習への意識等，教師の指導の実際等について質問紙調査

（2）算数，数学

ペ ー パ ー テ ス ト	「数学的に考える力」に関する調査 （日常事象の考察に算数・数学を生かすこと，論理的に考えること など）	● 共通の問題を出題し，学年進行に伴う定着やつまずきの状況を把握 ● 考えるプロセスを重視した問題や，同じ内容で問い方，解答形式等を変えた問題などを通して，理解状況を多角的に把握
	「計算に関する力」に関する調査 （式や計算の意味を理解すること，計算方法の理解や計算を処理すること など）	
質問紙調査		● 本調査で出題したペーパーテストの具体的な問題に即した児童生徒の意識等，教師の指導の実際等について質問紙調査

3. 対象学年，調査実施日：

- ・ 小学校第4～6学年，中学校第1～3学年を対象
- ・ 平成17年1月25日，2月17日に調査実施

4. 調査実施学校及び児童生徒数：

各教科・学年につき，3,000人の調査結果を得ることとして，全国の国公私立の小，中学校から調査対象学校及び学級を国立教育政策研究所において無作為に抽出。（合計約3万7千人）

5. 問題作成，採点，集計及び分析：

国立教育政策研究所において，大学教授，指導主事，教員等を協力者として委嘱し，問題作成，採点，集計及び分析を実施。

特定の課題に関する調査(国語) 分析結果のポイント

漢字(読み・書き)

【調査の概要】

- 読み・書き(各50問, 計100問), 複数学年に10問ずつ共通の漢字を出題

【調査結果の概要】

- 共通問題を比較すると, 配当学年の次の学年での「書き」の正答率が高まっており, 2年間で定着を図る指導に成果
※小学校学習指導要領では, 書きの指導については, 当該学年では漸次書くようにし, 次の学年までに, 文や文章の中で適切に使うことができるよう時間をかけて指導することとしている。
- 漢字の「読み」も学年進行に伴い定着
- 日常生活や学習場面での使用頻度が高い漢字は定着。一方, 使用頻度が低いものや使用範囲が狭いものの定着は不十分

長文記述

【調査の概要】

- 意見文の記述 小学校 400～600字(50分), 中学校 600～800字(60分)
- 長文を記述する能力を総合的に把握するために, まとまった分量の文章を記述させ, 1つの文章を「記述の量」「発想や主題・認識」「構成」「記述」などの観点(6～7項目)から分析
→全国的に教育課程の実現状況をみるための, まとまった量の記述や多角的な分析は, 初めての試み

<小学校の問題>

ある雑誌に、「小学生は、テレビを見すぎている」という記事がのっていました。これを見て、田中さんの学校では、六年生全体で「小学生のテレビの見方」について話し合うことになりました。そこで、クラスごとに、「テレビの見方について」の考えをまとめて文集にし、おたがいに読み合うことにしました。あなたが、田中さんのクラスの一人だとしたら、どのように考えますか。「小学生のテレビの見方」について、あなたの考えを原稿用紙に書きましょう。

【調査結果の概要】

- いずれの学年でも規定の量の文章を記述しているものが約9割
- 各観点到正答した小6・中3の児童生徒の割合は6～8割程度。学年進行に伴い, 長文を記述する力を高める指導に成果
- 形式段落は設けられるが, 自分の考えが明確になるよう段落を構成したり, ひとまとまりの文章として一貫性を持たせることに課題

特定の課題に関する調査(算数・数学) 分析結果のポイント

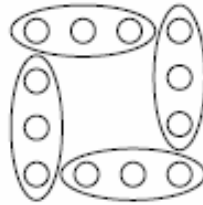
【調査の概要】

- ① 教育課程実施状況調査において、課題の見られた「**数学的に考える力**」「**計算に関する力**」について焦点を絞って詳しく調査
- ② 共通の問題を複数学年に出題し、学年進行に伴う定着やつまずきの状況を把握
- ③ **考えるプロセスを重視した問題**や、同じ内容で問い方、解答形式等を変えた問題などを通して、理解状況を多角的に把握

【問題例】 数学的に考える力 発展的・創造的に考えること 小4～6共通問題

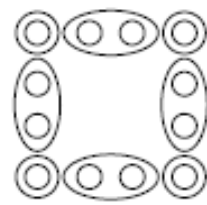
あきらさんは、一辺のおはじきの数が4このときの正方形のおはじきの数を、次のように2つの方法でもとめ、図と式に表しました。

方法ア



式 3×4

方法イ



式 $2 \times 4 + 4$

1辺の個数が6個の場合

- (2) 一辺のおはじきの数が6このときの正方形のおはじきの数をもとめます。方法アと方法イを使うと、どんな図と式で表すことができますか。もとめ方を表す図と式をかきましょう。

	方法ア	方法イ	正答率	方法ア	方法イ
正答	5×4 $5 + 5 + 5 + 5$ など	$4 \times 4 + 4$ $4 + 4 + 4 + 4 + 4$ など	4年	59.6%	60.7%

1辺の個数が100個の場合

- (3) 一辺のおはじきの数が100このときの正方形のおはじきの数をもとめます。方法アと方法イを使うとどんな式で表せますか。もとめ方を表す式を書きましょう。

	方法ア	方法イ	正答率	方法ア	方法イ
正答	99×4 $99 + 99 + 99 + 99$ など	$98 \times 4 + 4$ $98 + 98 + 98 + 98 + 4$ など	4年	31.4%	32.1%

個数が増えると正答率が低くなり、数値を一般化することに課題

【調査結果の概要】

- 複数学年に共通に出題した問題を比較すると、**学年進行に伴い定着しており、指導の成果**

数学的に
考える力

- 情報を選んで問題を解決したり、変化の様子をグラフに表現するなど、日常事象の考察に算数・数学を生かす力に課題
- 数量の関係について決まりを見つけたりすることに課題
- 演繹的な考え方を説明・記述する力に課題

計算に
関する力

- 式や計算の意味理解に課題がみられるが、分数を整数に置き換えて考えさせると通過率が上昇
- 計算のきまりについて、四則計算における乗除先行の理解が不十分。ただし、具体的場面を設けた問題では通過率が上昇

今回の調査結果と指導改善の具体策

国語

調査結果における主な課題

指導の改善の具体策

漢字（読み・書き）

- 読み、書きとも学年進行に伴い通過率が上昇
- 際だって通過率の低い漢字がある
- 使用頻度が低い、複雑な字形、類似の字形がある漢字に誤答・無解答が多い

- 誤りやすい漢字の反復・重点的な指導
- 類似字をまとめて示したり、部首に注意させるなどの指導
- 漢字の意味や語句としての使われ方なども併せて理解させる指導
- 形式的反復でなく、文章の中で取り上げ、漢字への関心を高める指導

長文記述

- 発想、構成、記述など各観点とも学年進行に伴い通過率が上昇
- 考えが明確になるよう段落構成したり、論の運び方に一貫性を持たせる点に課題
- 具体例をあげたり、根拠を明確に示したりすることに課題<中学校>

- 字数や時間、相手など条件、課題に合わせて文章を記述させる指導
- 構成メモなどで段落相互の関係を意識させ、論の運びを一貫させる指導
- 自分の考えを明確にし、具体例や理由などの根拠を示させる指導
- 日記、観察・報告文など、多様な機会を書くことに慣れさせる指導

算数・数学

数学的に考える力

- 情報を選んで問題を解決したり、変化の様子をグラフに表現するなど、日常事象の考察に算数・数学を生かす力に課題
- 数量の関係について決まりを見つけたり、面積の求め方について発展的に考えることに課題
- 演繹的な考え方を説明・記述する力に課題

- 日常生活と結びつけた指導の充実
- 解決の方法や考え方に着目した指導、条件を変え発展的に考察させる指導の充実
- 根拠を明らかにしながら論理的に筋道を立てて説明させる指導の充実

計算に関する力

- 式や計算の意味理解に課題がみられるが、分数を整数に置き換えて考えさせると通過率が上昇
- 計算のきまりについて、四則計算における乗除先行の理解が不十分。ただし、具体的場面を設けた問題では通過率が上昇

- 整数段階から演算決定を丁寧に扱い、計算の意味を理解させる指導
- 計算のきまりの機械的暗記でなく、具体的場面と結びつけた指導
- 計算方法だけでなく、「なぜ計算するか」、「何が分かるか」を考えさせる指導